

2. アンケート調査結果の概要

計画策定の基礎資料とするため、市内居住の 65 歳以上の人および 65 歳以上で要介護・要支援認定を受けている人の健康状態や生活、介護の状況、介護保険に対するご意見やご要望等をお聞きするとともに、高齢者福祉計画及び介護保険事業計画の策定と効果評価を目的にアンケート調査を実施しました。

【アンケート調査の概要】

	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	在宅介護実態調査	介護支援専門員調査	事業所調査	高齢者雇用等調査
対象	○市内居住の介護保険第 1 号被保険者（65 歳以上、要支援者を含む）（抽出調査）	○市内に居住し、在宅で生活している要介護（要支援）認定者（抽出調査）	○事業所紹介一覧に掲載の市内外の在宅介護支援事業所の介護支援専門員（悉皆）	○市内所在の介護サービス提供事業所（悉皆）	○市内事業所（悉皆）
調査期間	令和 7 年 12 月 1 日～令和 8 年 1 月 5 日			令和 8 年 5 月 11 日～25 日	令和 8 年 5 月 19 日（火）～6 月 9 日（火）
調査方法	郵送による配布・回収		郵送による配布、Web フォームによる回収		近江八幡商工会議所 メールマガジン、安土町商工会 会報郵送同封（その他企人連、たすかるチケット換金事業者へのチラシ）による配布、Web フォームによる回収
配布数	4,000 件	1,100 件	106 件	95 件	約 1,263 件 （近江八幡商工会議所 メールマガジン登録事業所 約 1,000 事業所、安土町商工会 会報郵送事業所 263 事業所）
回収数	2,537 件 （有効回答：2,537 件）	650 件 （有効回答：646 件）	72 件 （有効回答：72 件）	27 件	56 件
回収率	63.4%	58.7%	67.9%	28.4%	4.43%

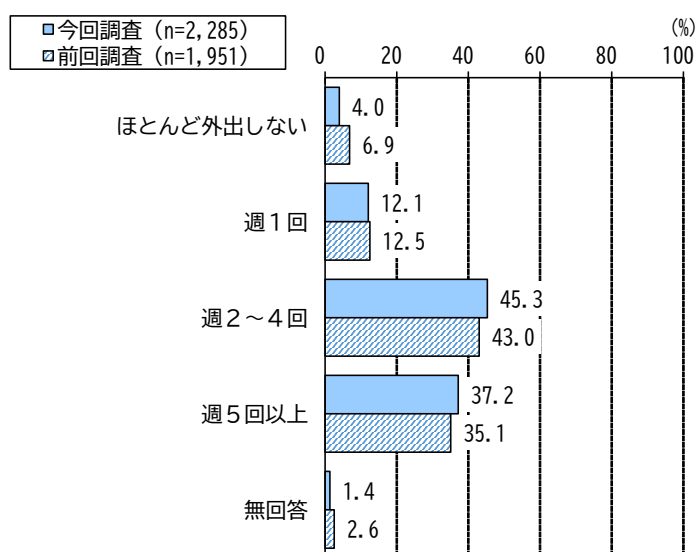
- 図表中の「n」とは、集計対象実数（あるいは該当対象者実数）を指しています。
- 図表の数値（%）は、すべて小数点第2位を四捨五入して表示しています。そのため、単数回答を求めた設問でも、比率の合計が100%にならない場合があります。
- 複数回答を求めた設問では、比率の合計が100%を超えます。
- 無記入、回答の読み取りが著しく困難な場合、1つまでの回答を求めている設問に対し2つ以上回答していた場合は「不明・無回答」として処理しています。
- グラフ中の数字は、特に断り書きのないかぎりすべて構成比を意味し、単位は%です。
- 前回調査とは、令和4年度に本市で実施したアンケート調査のことです。経年変化は、前回調査と比較して統計的有意差（有意水準5%、 $p < 0.05$ ）が確認できた場合に記述しています。
- ※ 統計的に明らかな差異（統計的有意差）については、主に χ^2 （カイ）二乗検定により確認しました。

1) 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果概要

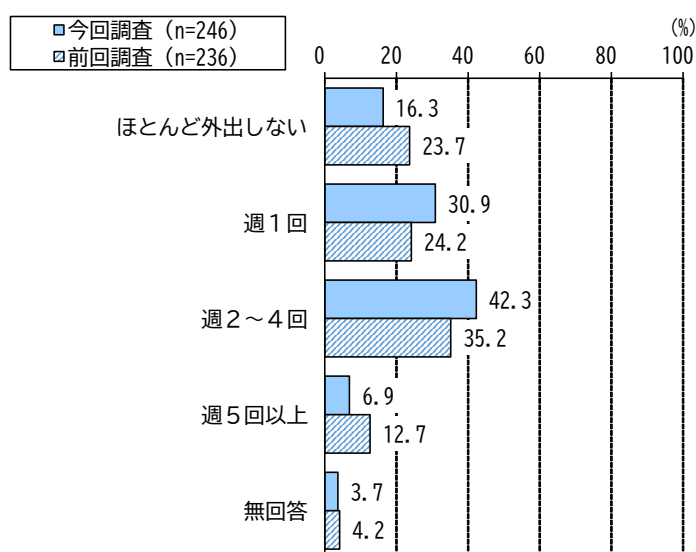
(1) 外出の状況

- 外出の状況をみると、一般高齢者では「週2～4回」が45.3%で最も多く、次いで「週5回以上」が37.2%、「週1回」が12.1%となっています。要支援者では、「週2～4回」が42.3%で最も多く、次いで「週1回」が30.9%、「ほとんど外出しない」が16.3%となっています。
- 経年変化をみると、今回調査で、要支援者では週1回、週2回～4回外出している人の割合が増加し、ほとんど外出しない、週5回以上外出する人の割合が減少しています。

【外出の状況（一般：前回比較）】

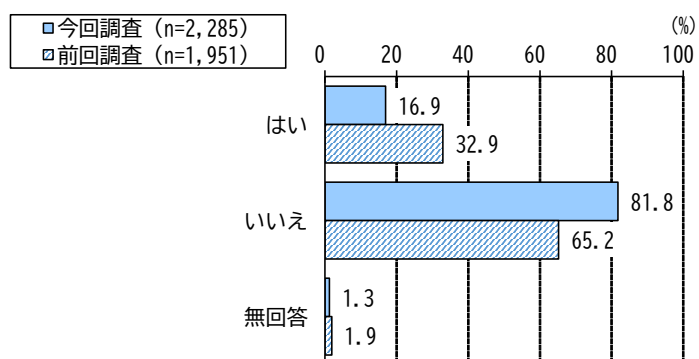


【外出の状況（要支援：前回比較）】

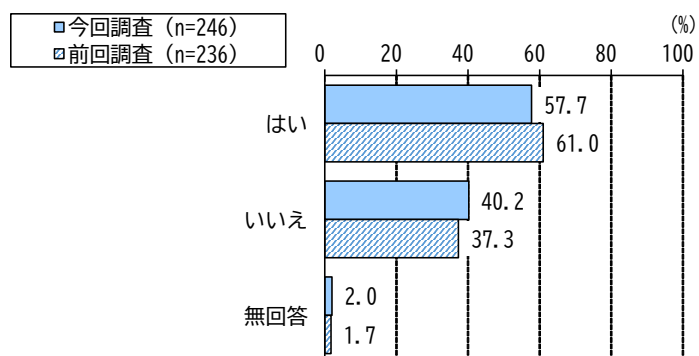


- 外出控えの状況をみると、一般高齢者は16.9%、要支援者は57.7%が「外出を控えている」と回答しています。
- 経年変化をみると、今回調査で、一般高齢者、要支援者ともに「はい」の割合が減少し、「いいえ」の割合が増加しています。

【外出控えの状況（一般：前回比較）】

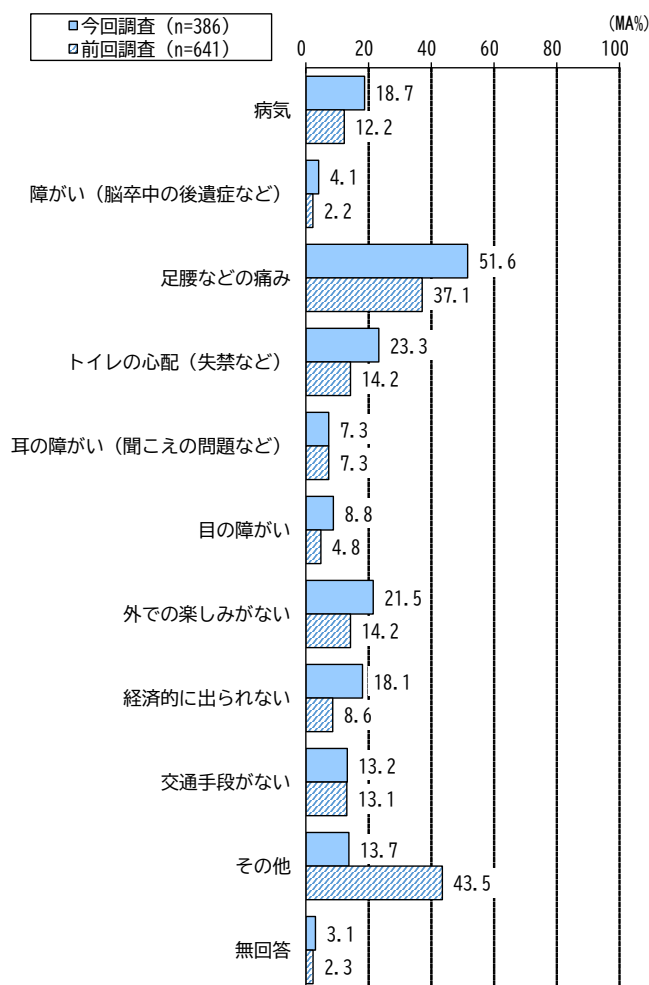


【外出控えの状況（要支援）】

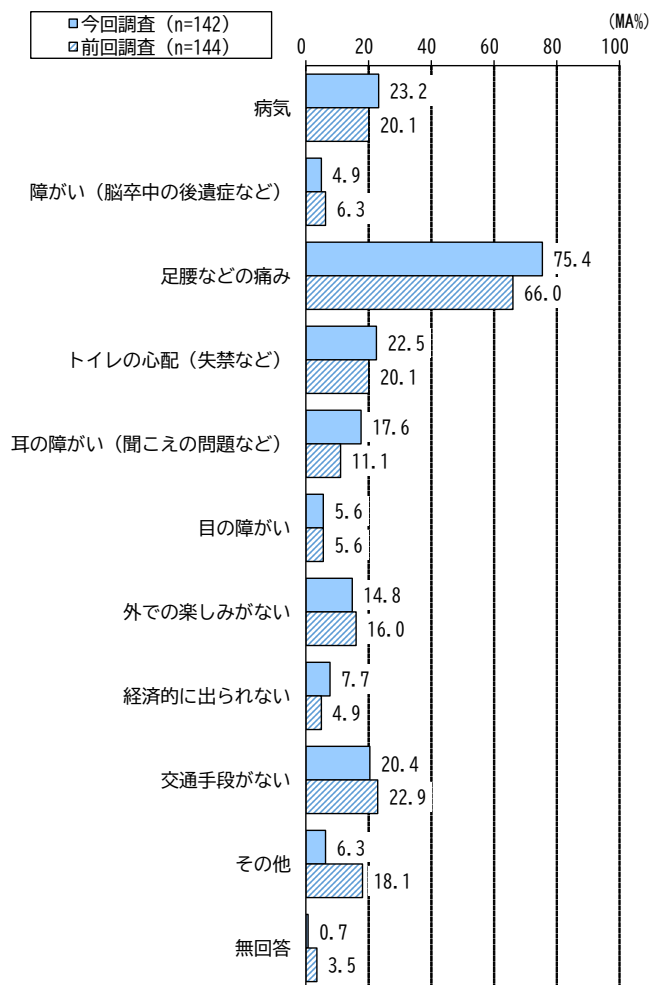


- 外出控えの理由をみると、一般高齢者は「足腰などの痛み」が 51.6%で最も多く、次いで「トイレの心配(失禁など)」が 23.3%、「外での楽しみがない」が 21.5%となっています。要支援者は「足腰などの痛み」が 66.0%で最も多く、次いで「病気」が 23.2%、「トイレの心配(失禁など)」が 22.5%となっています。
- 経年変化をみると、今回調査で、一般高齢者は「その他」の割合が減少し、「足腰などの痛み」「トイレの心配(失禁など)」「外での楽しみがない」「経済的に出られない」の割合が増加しています。要支援者は「その他」の割合が減少し、「足腰などの痛み」が増加しています。

【外出控えの理由（一般：前回比較）】



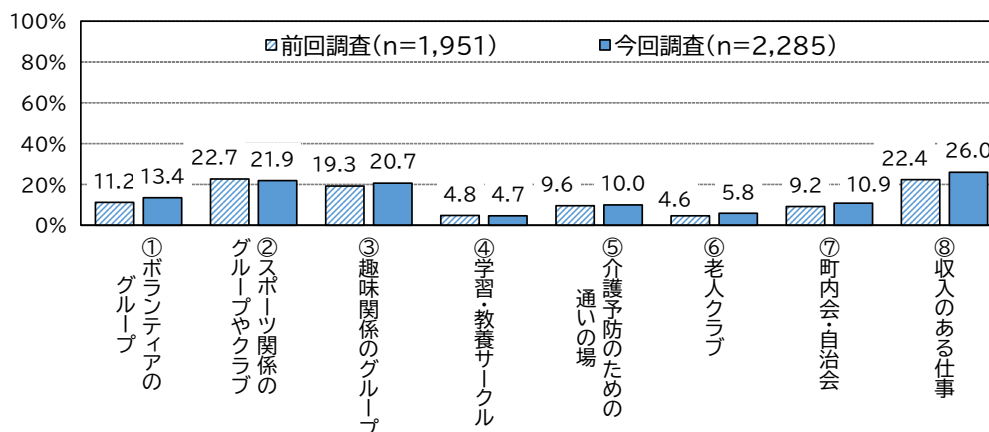
【外出控えの理由（要支援：前回比較）】



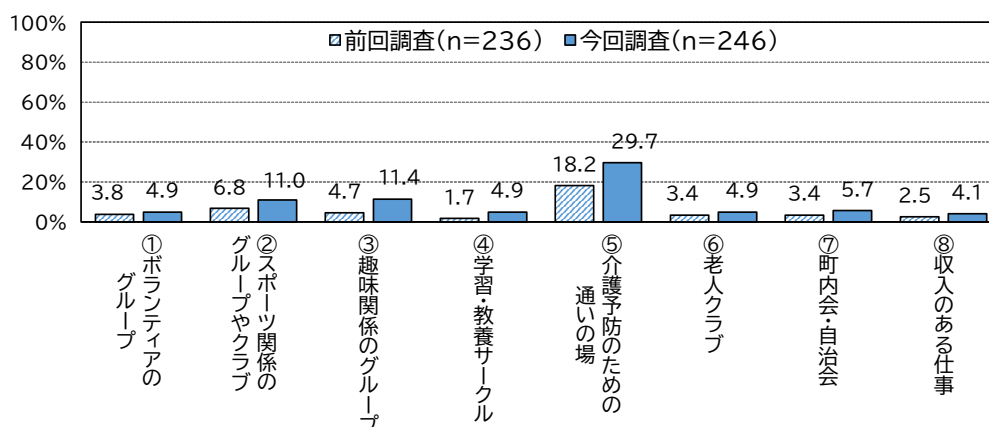
(2) 地域活動への参加状況

- 地域の会・グループ等への参加状況をみると、月に1回以上参加している割合は、一般高齢者は「⑧収入のある仕事」が26.0%で最も多く、「②スポーツ関係のグループやクラブ」(21.9%)、「③趣味関係のグループ」(20.7%)が続いています。要支援者は「⑤介護予防のための通いの場」が29.7%で最も多く、「③趣味関係のグループ」(11.4%)、「②スポーツ関係のグループやクラブ」(11.0%)が続いています。
- 経年変化をみると、今回調査で、一般高齢者は全体に微増傾向だが、「②スポーツ関係のグループやクラブ」「④学習・教養サークル」の月1回以上参加の割合がやや減少しています。要支援者はすべての項目で月1回以上参加の割合が減少しています。

【各地域活動へ月1回以上参加の人の割合（一般：前回比較）】



【各地域活動へ月1回以上参加の人の割合（要支援：前回比較）】



(3) 就労の状況

- 月1回以上就労している人の割合は、一般高齢者では26.0%（年数回を含めた就労している人の割合は29.1%）、要支援者では4.0%（年数回を含めた就労している人の割合は4.8%）となっています。
- 今後の就労希望がある人の割合は、一般高齢者では28.1%となっており、男性33.8%、前期高齢者43.0%と就労希望の人が多くなっています。要支援者では7.7%となっており、男性11.3%、前期高齢者27.3%となっています。

【就労状況（一般：性別・年齢比較）】

		問5 (1) ⑧ 収入のある仕事						
		週 4 回 以 上	週 2 ～ 3 回	週 1 回	月 1 ～ 3 回	年 に 数 回	い 参 加 し て	無 回 答
全体 (n=2,285)		14.1	7.8	1.8	2.3	3.1	43.9	27.0
性別	男性 (n=1,181)	17.2	8.4	1.8	3.0	4.7	41.5	23.5
	女性 (n=1,104)	10.8	7.2	1.8	1.6	1.4	46.4	30.9
年齢	65～74歳 (n=1,082)	23.6	11.8	2.4	2.6	2.9	41.1	15.6
	75～84歳 (n=1,011)	6.2	4.7	1.5	2.2	3.9	46.8	34.7
	85歳以上 (n=192)	2.1	1.0	-	1.6	0.5	43.8	51.0

【就労希望（一般：性別・年齢比較）】

		問5 (7) あなたは今後、収入のある仕事をしたいと思いますか		
		はい	いいえ	無回答
全体 (n=2,285)		28.1	67.1	4.9
性別	男性 (n=1,181)	33.8	62.8	3.4
	女性 (n=1,104)	21.9	71.6	6.4
年齢	65～74歳 (n=1,082)	43.0	53.1	3.9
	75～84歳 (n=1,011)	16.2	78.3	5.4
	85歳以上 (n=192)	6.3	86.5	7.3

【就労状況（要支援：性別・年齢比較）】

		問5 (1) ⑧ 収入のある仕事						
		週 4 回 以 上	週 2 ～ 3 回	週 1 回	月 1 ～ 3 回	年 に 数 回	い 参 加 し て	無 回 答
全体 (n=246)		2.0	1.6	-	0.4	0.8	48.8	46.3
性別	男性 (n=80)	5.0	1.3	-	-	-	53.8	40.0
	女性 (n=166)	0.6	1.8	-	0.6	1.2	46.4	49.4
年齢	65～74歳 (n=33)	6.1	6.1	-	-	-	72.7	15.2
	75～84歳 (n=111)	0.9	0.9	-	0.9	0.9	50.5	45.9
	85歳以上 (n=102)	2.0	1.0	-	-	1.0	39.2	56.9

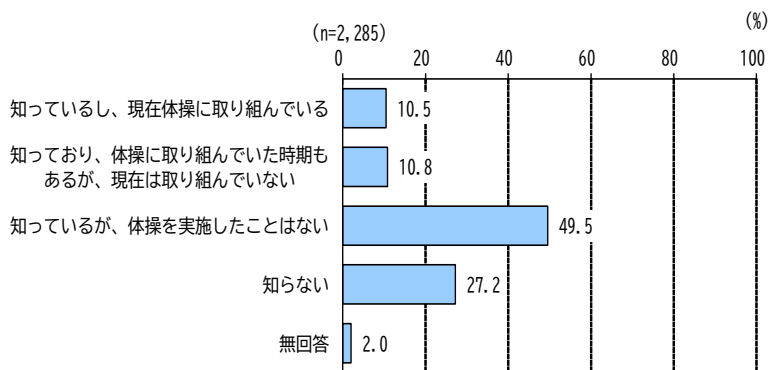
【就労希望（要支援：性別・年齢比較）】

		問5 (7) あなたは今後、収入のある仕事をしたいと思いますか		
		はい	いいえ	無回答
全体 (n=246)		7.7	79.7	12.6
性別	男性 (n=80)	11.3	77.5	11.3
	女性 (n=166)	6.0	80.7	13.3
年齢	65～74歳 (n=33)	27.3	57.6	15.2
	75～84歳 (n=111)	7.2	84.7	8.1
	85歳以上 (n=102)	2.0	81.4	16.7

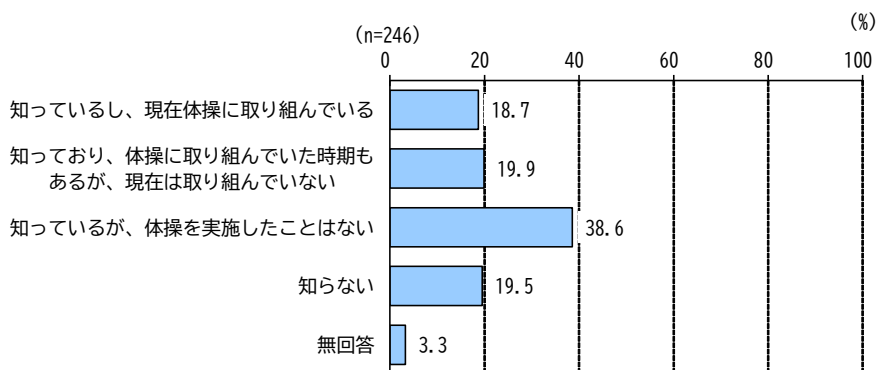
(4) いきいき百歳体操

- いきいき百歳体操についての認知状況は、一般高齢者は「知っているが、体操を実施したことはない」が49.5%、「知らない」が27.2%となっています。要支援者は「知っているが、体操を実施したことはない」が38.6%、「知らない」が19.5%となっています。

【いきいき百歳体操の認知状況（一般高齢者）】



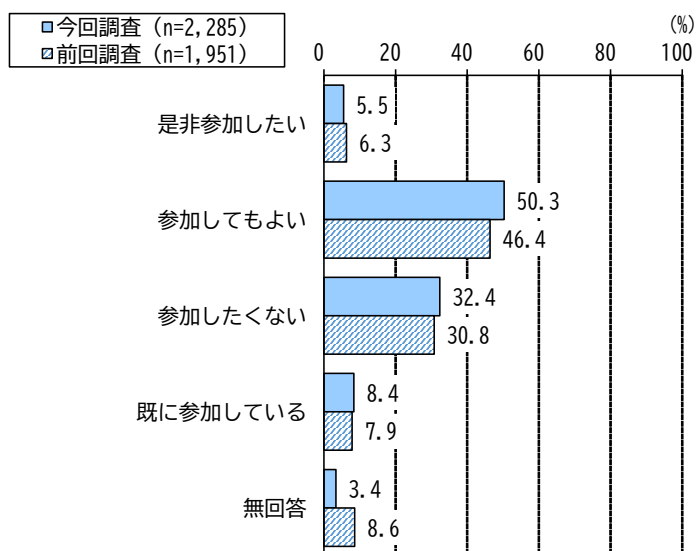
【いきいき百歳体操の認知状況（要支援者）】



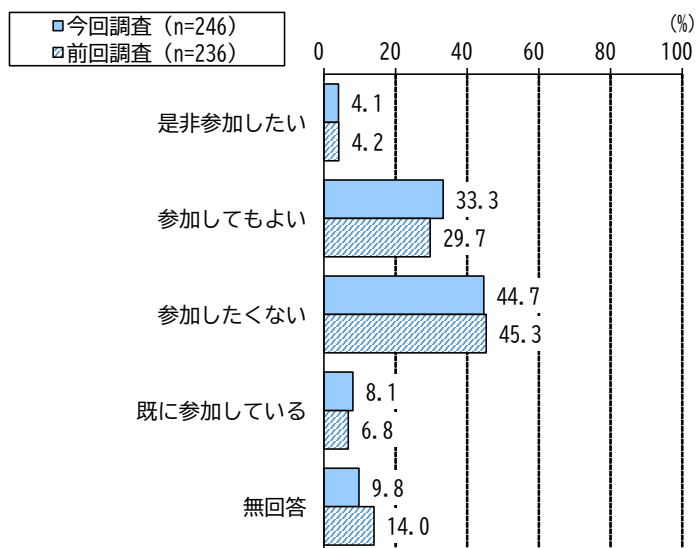
(5) 参加者としての地域づくりの参加意向

- 参加者としての活動への参加意向をみると、「是非参加したい」「参加してもよい」「既に参加している」を合わせると、参加意向がある割合は、一般高齢者は64.2%、要支援者は45.5%となっています。
- 経年変化をみると、今回調査で、一般高齢者、要支援者ともに「参加してもよい」の割合がやや増加しています。

【参加者としての地域づくりの参加意向（一般：前回比較）】



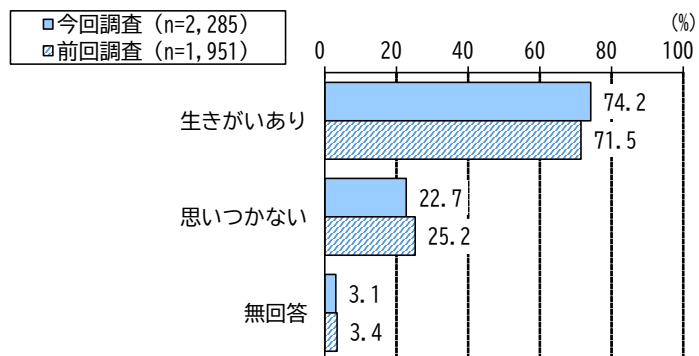
【参加者としての地域づくりの参加意向（要支援：前回比較）】



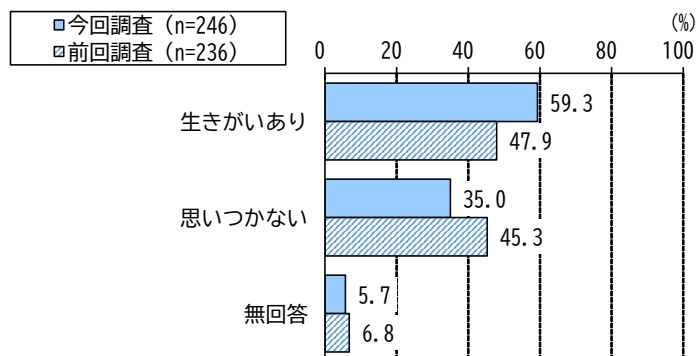
(6) 生きがいの有無

- 「生きがいあり」の割合は、一般高齢者は74.2%、要支援者は59.3%となっています。
- 経年変化をみると、今回調査で、要支援者は「生きがいあり」の割合が増加しています。

【生きがいの有無（一般：前回比較）】



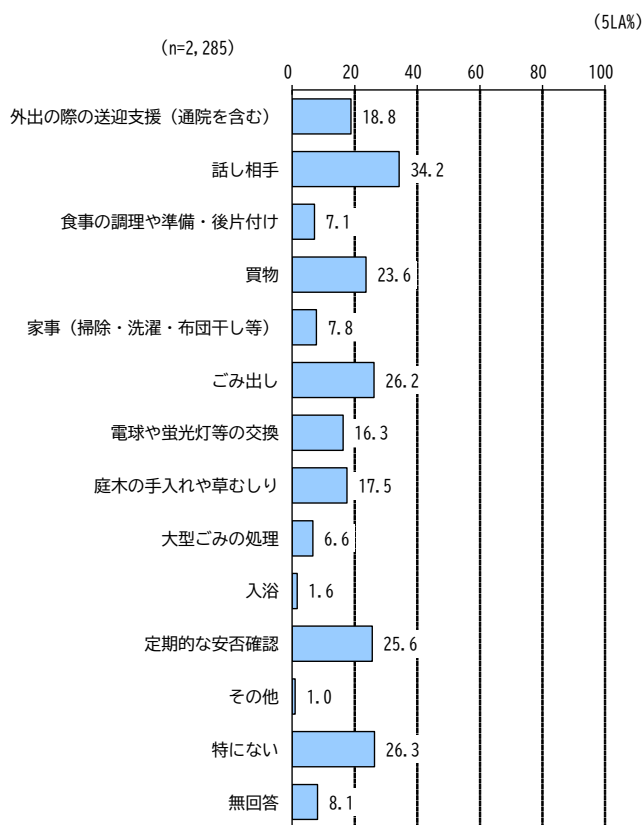
【生きがいの有無（要支援：前回比較）】



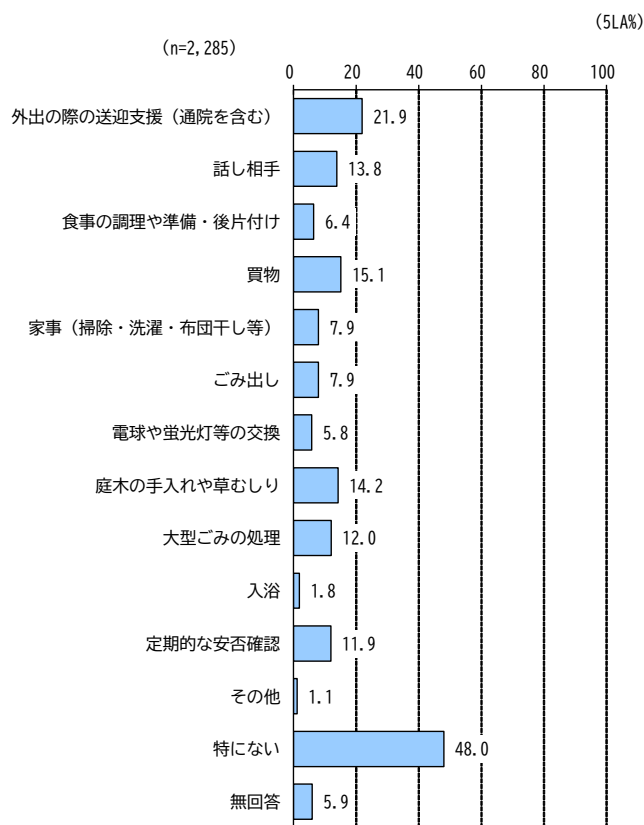
(7) 可能な支援と地域にしてほしい支援

- 地域にしてほしい支援をみると、一般高齢者は「特にない」が48.0%で最も多く、「外出の際の移動支援（通院を含む）」(21.9%)、「買物」(15.1%)が続いています。要支援者は「外出の際の移動支援（通院を含む）」が34.6%で最も多く、「特にない」(25.2%)、「買物」(21.1%)が続いています。
- 可能な支援よりも地域にしてほしい支援のほうが5ポイント以上多いのは、一般高齢者では「大型ごみの処理」、要支援者は「外出の際の移動支援（通院を含む）」「買物」「家事（掃除・洗濯・布団干し等）」「ごみ出し」「庭木の手入れや草むしり」「大型ごみの処理」です。

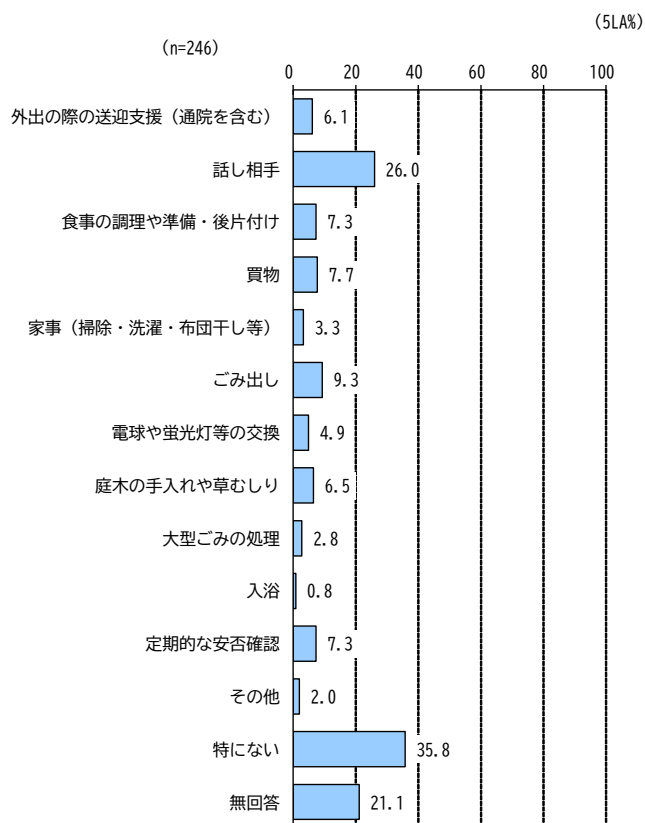
【可能な支援（一般）】



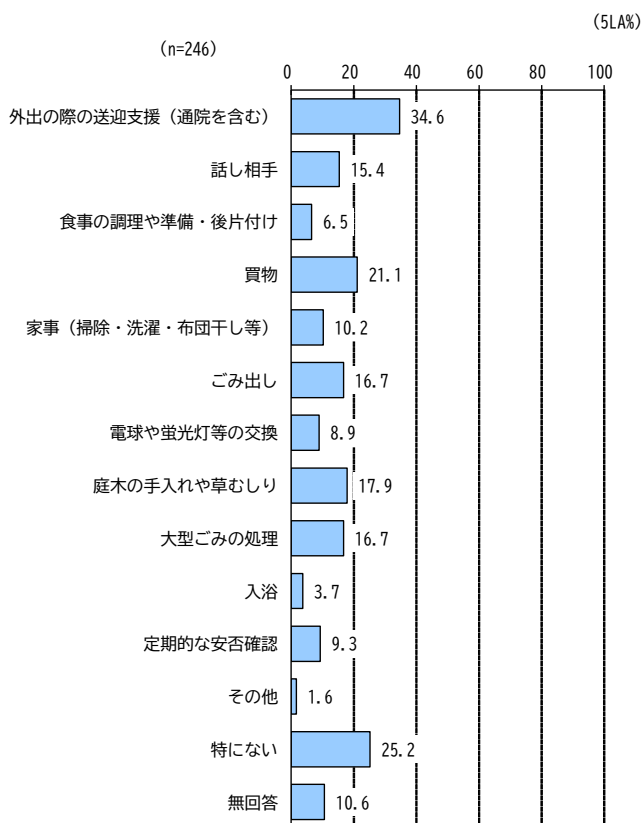
【地域にしてほしい支援（一般）】



【可能な支援（要支援）】



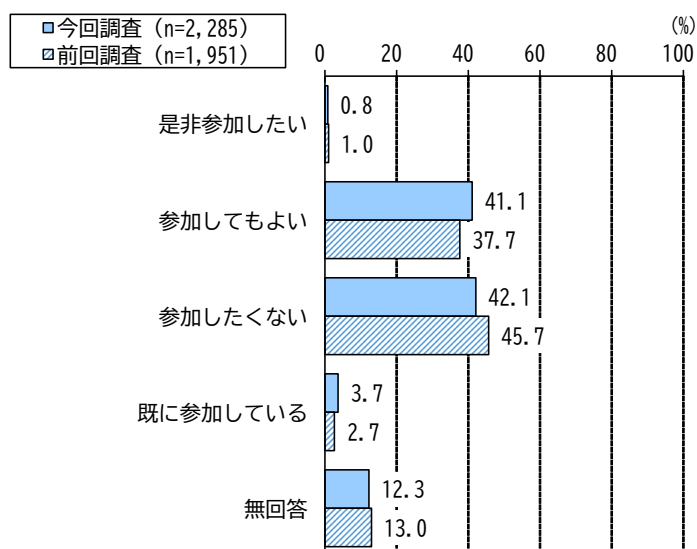
【地域にしてほしい支援（要支援）】



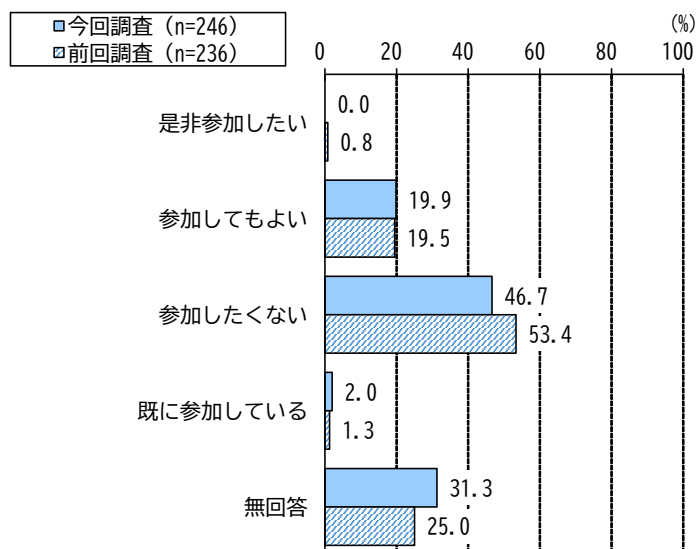
(8) 手助けとしての支援活動への参加意向

- 手助けとしての支援活動への参加意向をみると、「是非参加したい」「参加してもよい」「既に参加している」を合わせると、参加意向がある割合は、一般高齢者は45.6%、要支援者は21.9%となっています。

【手助けとしての支援活動への参加意向（一般：前回比較）】



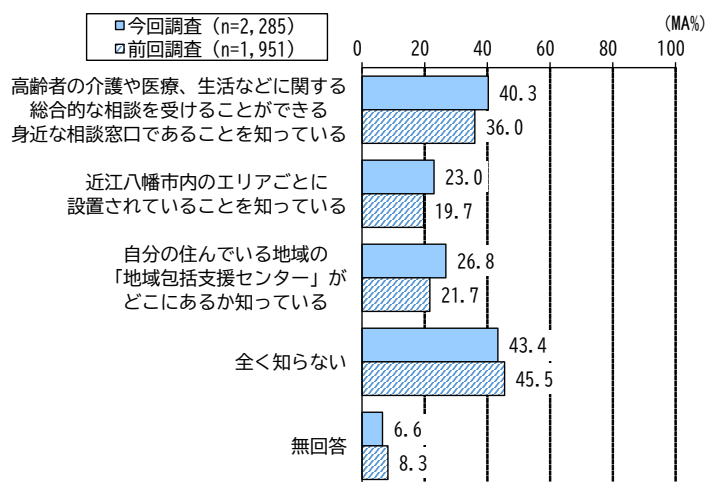
【手助けとしての支援活動への参加意向（要支援）】



(9) 地域包括支援センターの認知状況

- 地域包括支援センターの認知状況をみると、「全く知らない」割合は、一般高齢者は43.4%、要支援者は25.6%となっています。
- 「全く知らない」は、一般高齢者、要支援者ともに男性、75～84歳で多く、一般高齢者では、男性54.0%、75～84歳44.2%、要支援者では、男性28.8%、75～84歳31.5%となっています。

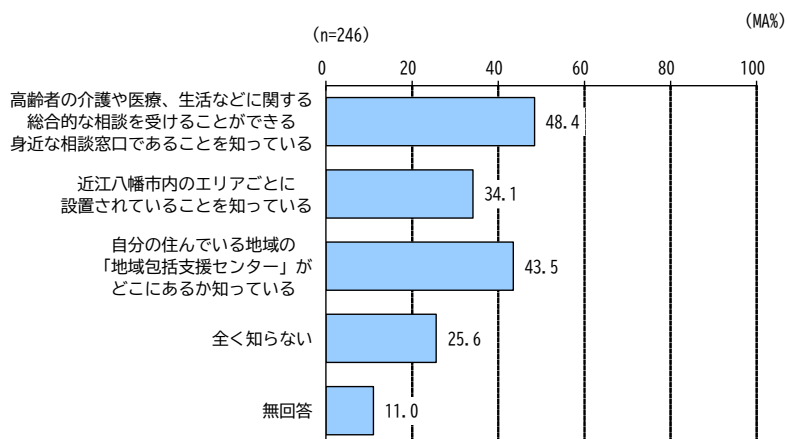
【地域包括支援センターの認知状況（一般）】



【地域包括支援センターの認知状況（一般：性別・年齢比較）】

		問9 (8) 近江八幡市の「地域包括支援センター」について知っていることを選んでください(MA)				
		高齢者の介護や医療、生活などに関する総合的な相談を受けることができる身近な相談窓口であることを知っている	近江八幡市内のエリアごとに設置されていることを知っている	自分の住んでいる地域の「地域包括支援センター」がどこにあるか知っている	全く知らない	無回答
全体 (n=2,285)		40.3	23.0	26.8	43.4	6.6
性別	男性 (n=1,181)	32.8	19.0	22.0	50.6	5.8
	女性 (n=1,104)	48.3	27.4	32.0	35.7	7.4
年齢	65～74歳 (n=1,082)	42.5	24.3	27.3	43.2	4.1
	75～84歳 (n=1,011)	39.4	22.2	26.7	44.2	7.7
	85歳以上 (n=192)	32.3	20.3	25.0	40.6	15.1

【地域包括支援センターの認知状況（要支援者）】

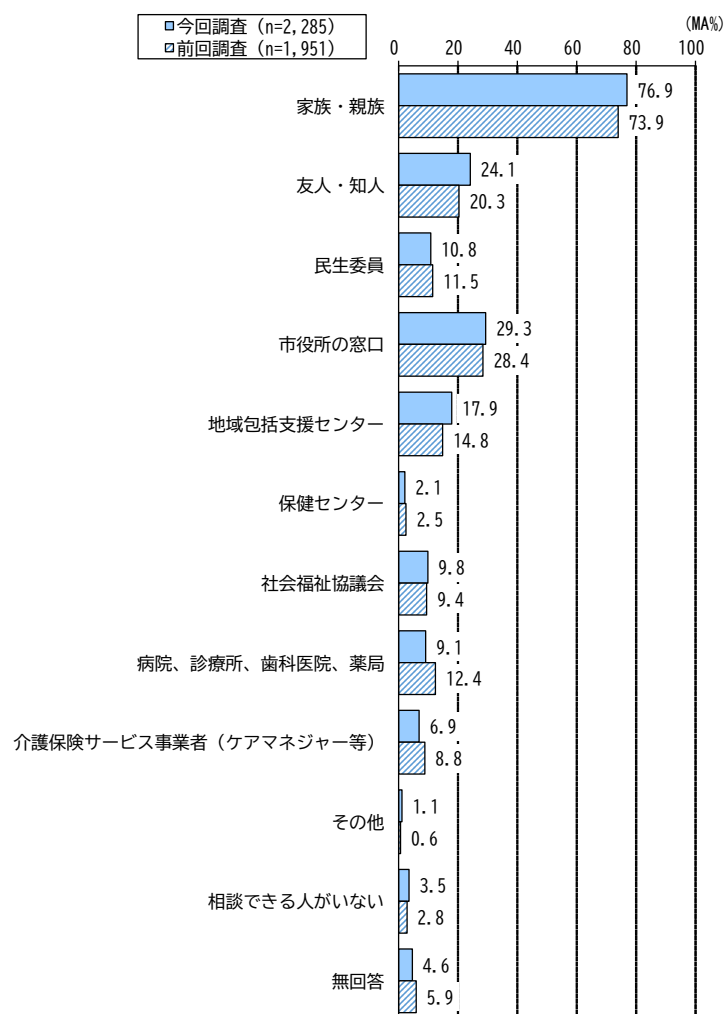


		問9 (8) 近江八幡市の「地域包括支援センター」について知っていることを選んでください(MA)				
		高齢者の介護や医療、生活などに関する総合的な相談を受けることができる身近な相談窓口であることを知っている	近江八幡市内のエリアごとに設置されていることを知っている	自分の住んでいる地域の「地域包括支援センター」がどこにあるか知っている	全く知らない	無回答
全体 (n=246)		48.4	34.1	43.5	25.6	11.0
性別	男性 (n=80)	45.0	38.8	41.3	28.8	10.0
	女性 (n=166)	50.0	31.9	44.6	24.1	11.4
年齢	65～74歳 (n=33)	48.5	36.4	45.5	18.2	12.1
	75～84歳 (n=111)	47.7	36.0	41.4	31.5	9.9
	85歳以上 (n=102)	49.0	31.4	45.1	21.6	11.8

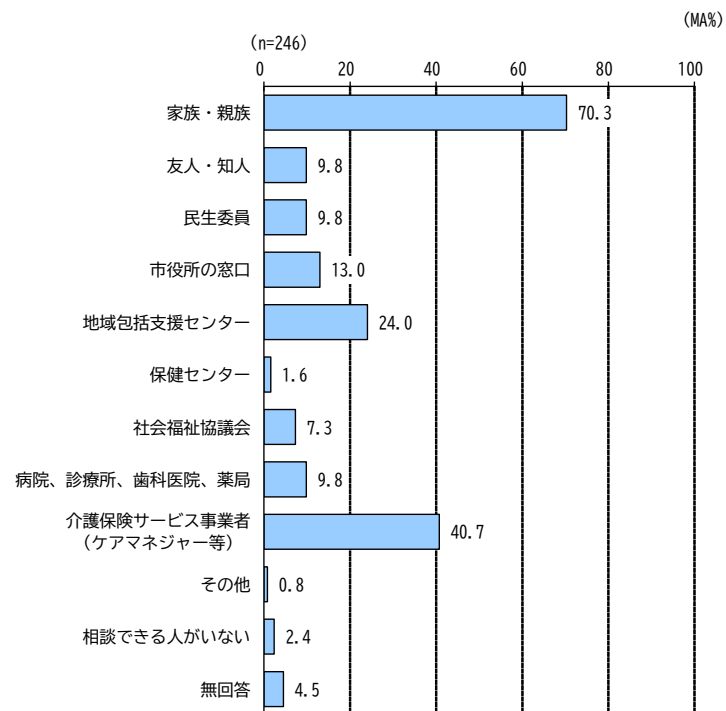
(10) 暮らしや福祉等の困りごとがあった時の相談先

- 暮らしや福祉等の困りごとがあった時の相談先をみると、一般高齢者は、「家族・親族」が76.9%で最も多く、次いで「市役所の窓口」(29.3%)、「友人・知人」(24.1%)が続いています。
- 要支援者は、「家族・親族」が70.3%で最も多く、次いで「介護保険サービス事業者（ケアマネジャー等）」(40.7%)、「地域包括支援センター」(24.0%)が続いています。

【暮らしや福祉等の困りごとがあった時の相談先（一般：前回比較）】



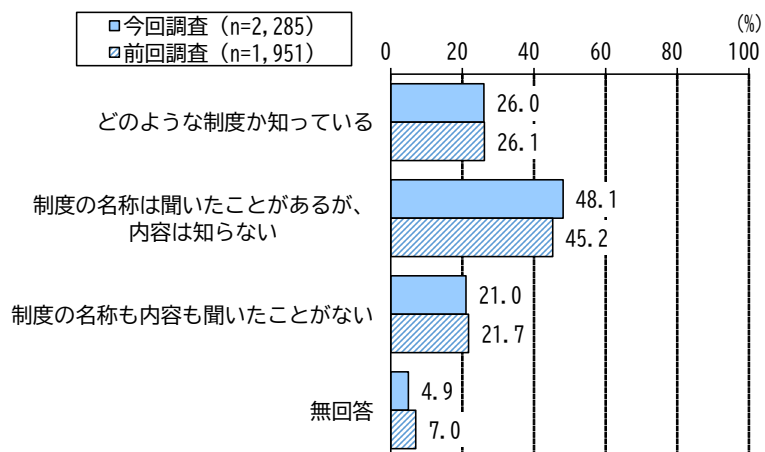
【暮らしや福祉等の困りごとがあった時の相談先（要支援）】



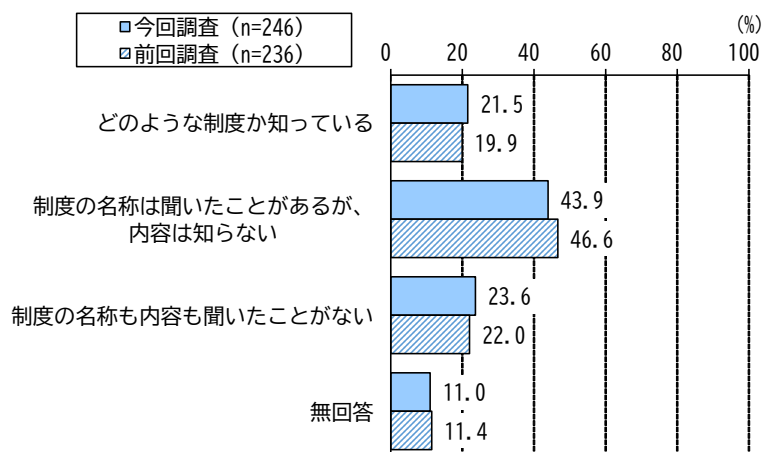
(11) 成年後見制度の認知状況

- 成年後見制度を知っている人の割合は、一般高齢者は26.0%、要支援者は21.5%となっています。
- 経年変化をみると、今回調査で、要支援者は「どのような制度か知っている」の割合が増加しています。

【成年後見制度の認知状況（一般：前回比較）】



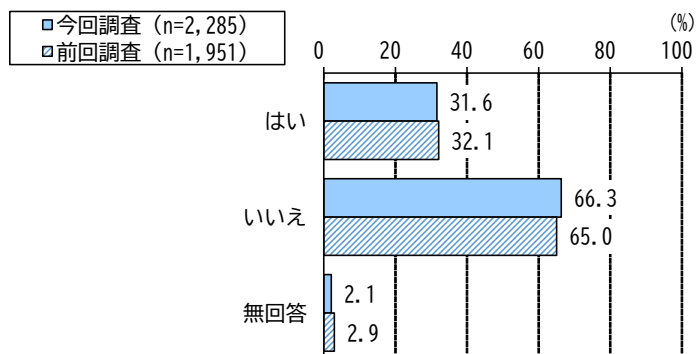
【成年後見制度の認知状況（要支援：前回比較）】



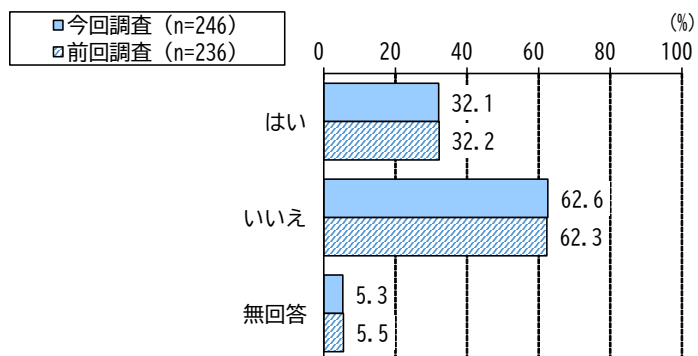
(12) 認知症に関する相談窓口の認知状況

- 認知症に関する相談窓口を知っている人の割合は、一般高齢者 31.6%、要支援者 32.1% となっています。

【認知症に関する相談窓口の認知状況（一般）】



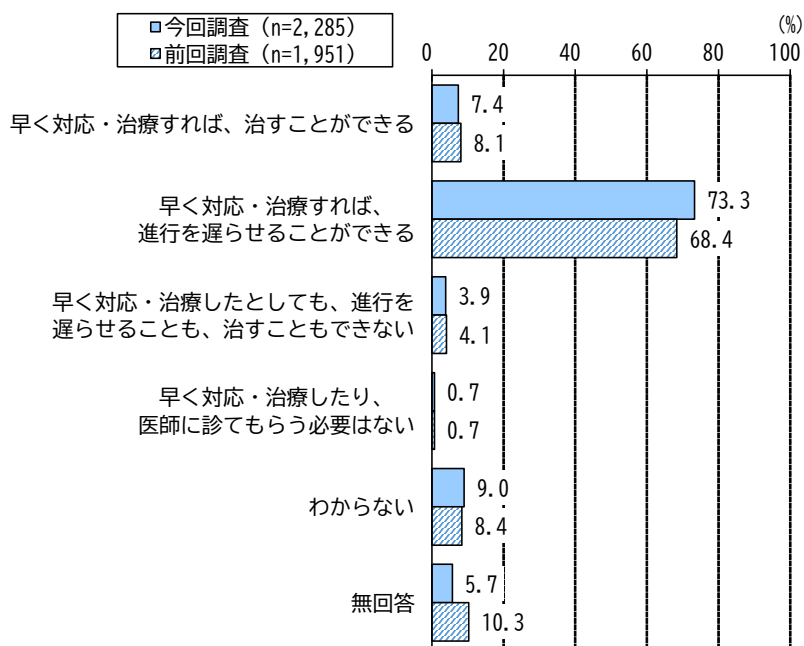
【認知症に関する相談窓口の認知状況（要支援）】



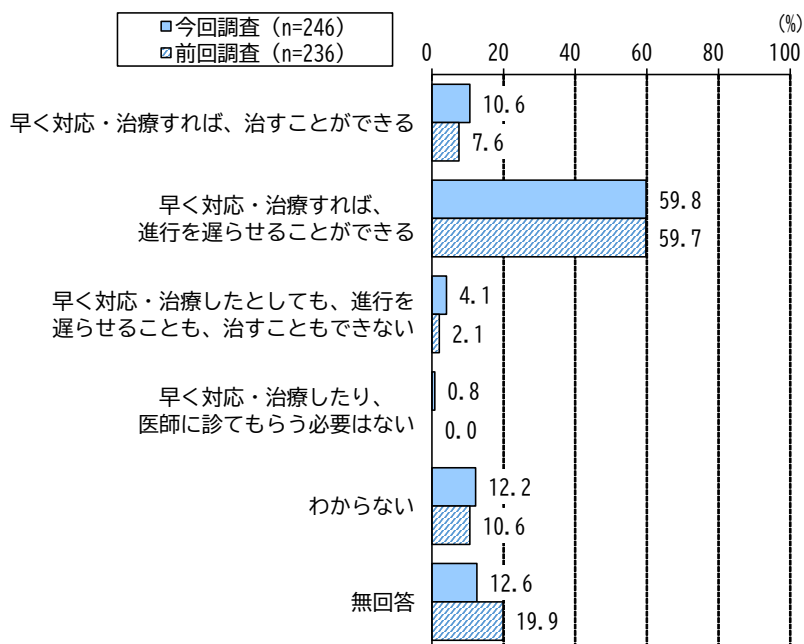
(13) 認知症の対応・治療へのイメージ

- 認知症の対応・治療のイメージとして「早く対応・治療すれば、進行を遅らせることができる」と回答した人の割合は、一般高齢者は73.3%、要支援者は59.8%となっています。

【認知症の対応・治療へのイメージ（一般）】



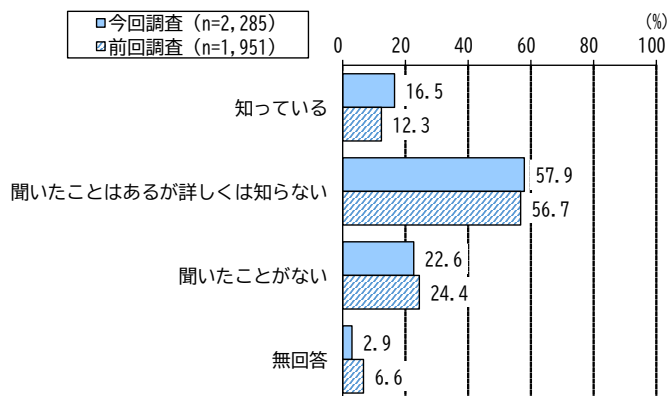
【認知症の対応・治療へのイメージ（要支援）】



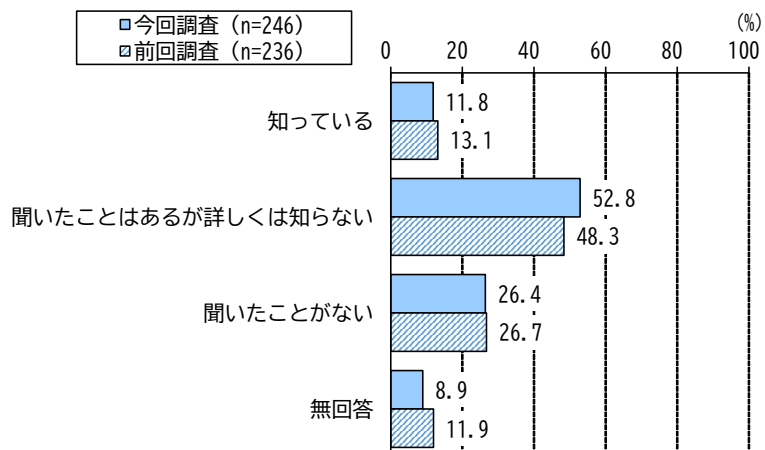
(14) 認知症の人への適切な接し方の認知状況

- 認知症の人への適切な接し方を知っている人の割合は、一般高齢者 16.5%、要支援者 11.8%となっています。

【認知症の人への適切な接し方の認知状況（一般：前回比較）】



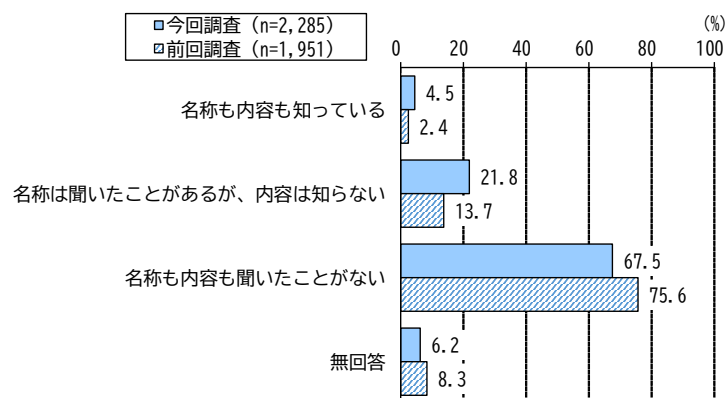
【認知症の人への適切な接し方の認知状況（要支援）】



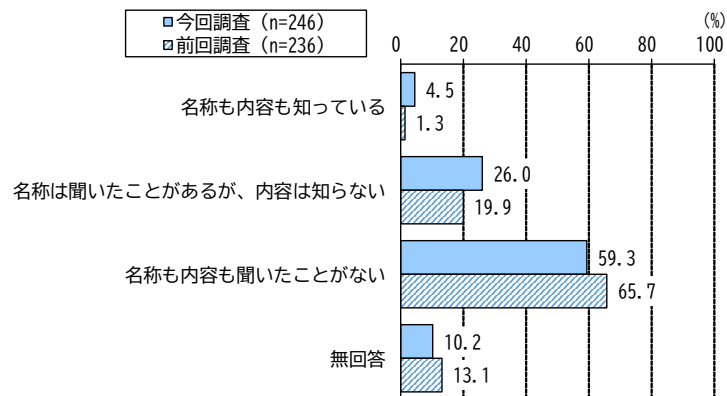
(15) ACP（人生会議）の認知状況

- ACP（人生会議）について「名称も内容も知っている」人の割合は、一般高齢者で4.5%、要支援者で4.5%となっています。
- 経年変化をみると、今回調査で、一般高齢者は「名称も内容も知っている」「名称は聞いたことがあるが、内容は知らない」の割合が増加し、「名称も内容も聞いたことがない」の割合が減少しています。

【ACP（人生会議）の認知状況（一般：前回比較）】



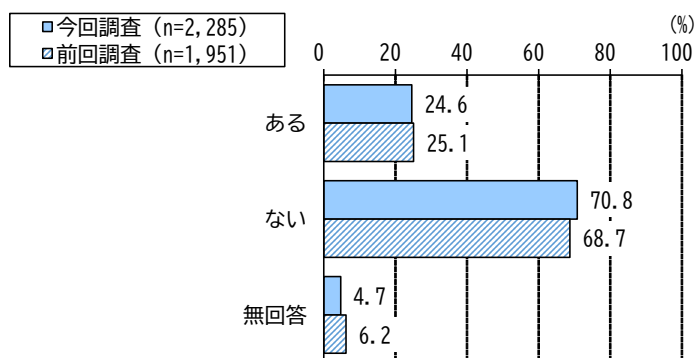
【ACP（人生会議）の認知状況（要支援：前回比較）】



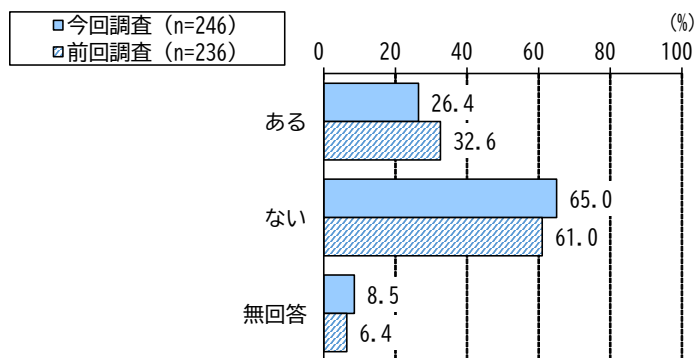
(16) 終末期の希望についての話し合いの有無

- 終末期の希望について話し合っている人の割合は、一般高齢者で 24.6%、要支援者で 26.4%となっています。

【終末期の希望についての話し合いの有無（一般）】



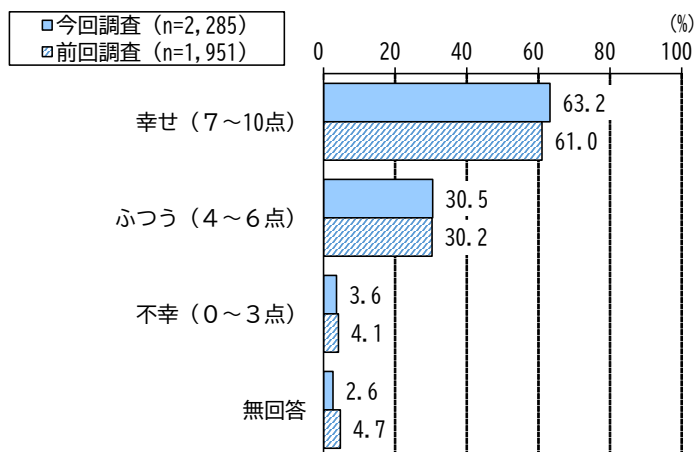
【終末期の希望についての話し合いの有無（要支援）】



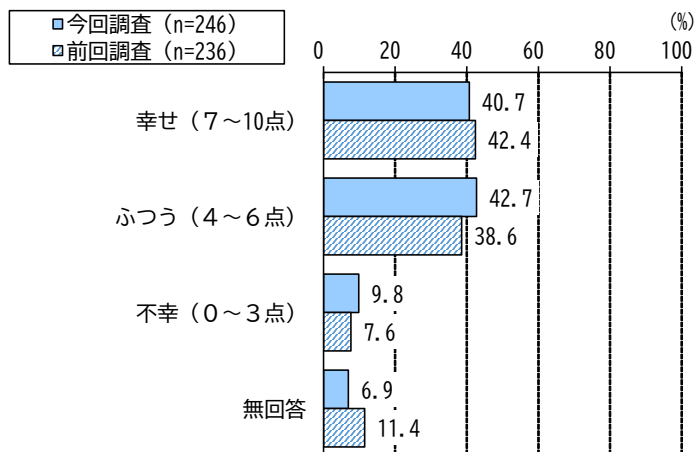
(17) 現在の幸福度

- 「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点とした時、現在の幸福度7点以上の高齢者の割合は、一般高齢者で63.2%、要支援者で40.7%となっています。

【現在の幸福度（一般）】



【現在の幸福度（要支援）】

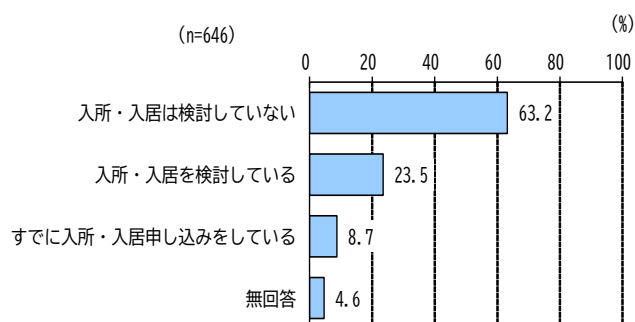


2) 在宅介護実態調査結果概要

(1) 施設等検討の状況

- 施設等検討の状況についてみると、「入所・入居は検討していない」人の割合は全体では63.2%となっています。
- 世帯類型別にみると、「入所・入居は検討していない」人の割合は単身世帯で58.3%と少なくなっています。

【施設等検討の状況】



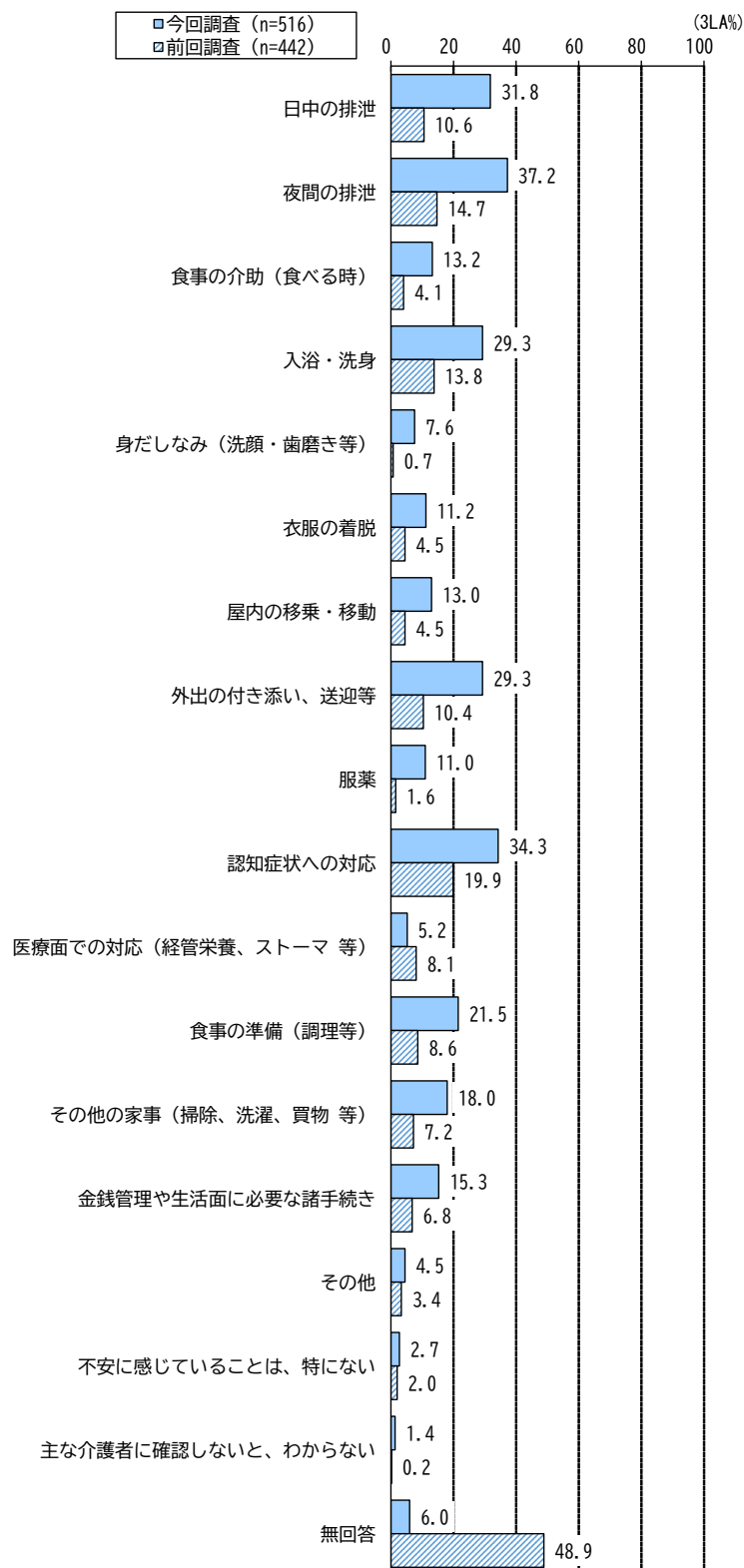
		A問6 現時点での、施設等への入所・入居の検討状況について、ご回答ください			
		入所・入居は検討していない	入所・入居を検討している	すでに入所・入居申し込みをしている	無回答
全体 (n=646)		63.2	23.5	8.7	4.6
世帯類型	単身世帯 (n=168)	58.3	26.2	10.7	4.8
	夫婦のみ世帯 (n=178)	62.4	21.9	9.6	6.2
	その他 (n=280)	68.2	22.5	6.8	2.5

※「施設等」とは、特別養護老人ホーム、老人保健施設、介護療養型医療施設、介護医療院、特定施設（有料老人ホーム等）、グループホーム、地域密着型特定施設、地域密着型特別養護老人ホームを指します。

(2) 現在の生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護

- 現在の生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護についてみると、「夜間の排泄」(37.2%)で最も多く、次いで「認知症状への対応」(34.3%)、「日中の排泄」(31.8%)が続いています。

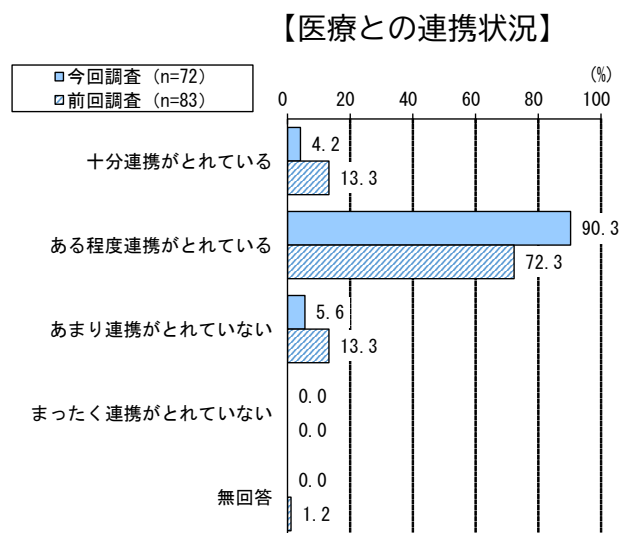
【今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護】



3) 介護支援専門員調査結果概要

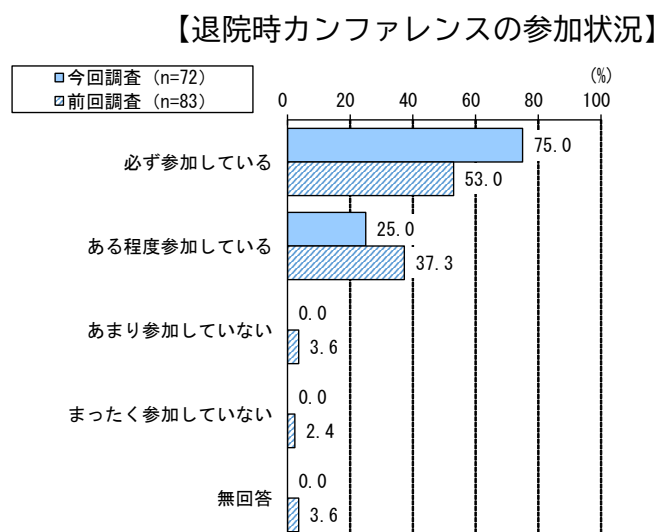
(1) 医療との連携状況

- 医療との連携状況についてみると、94.5%が「連携がとれている」（「十分連携がとれている」「ある程度連携がとれている」の和）と回答しています。



(2) 退院時カンファレンスの参加状況

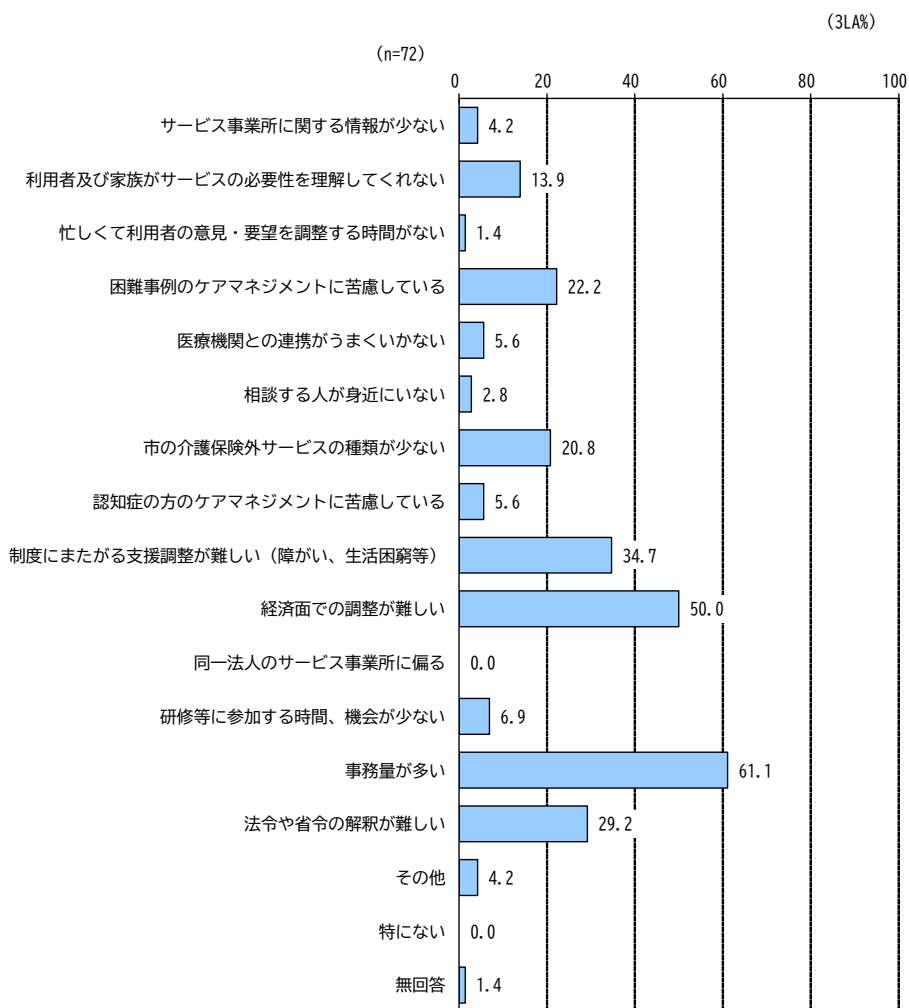
- 退院時カンファレンスの参加状況についてみると、100%が「参加している」（「必ず参加している」「ある程度参加している」の和）と回答しています。



(3) ケアマネジャー業務での課題

- ケアマネジャー業務での課題についてみると、「事務量が多い」が61.1%で最も多く、次いで「経済面での調整が難しい」が50.0%、「制度にまたがる支援調整が難しい（障がい、生活困窮等）」が34.7%となっています。

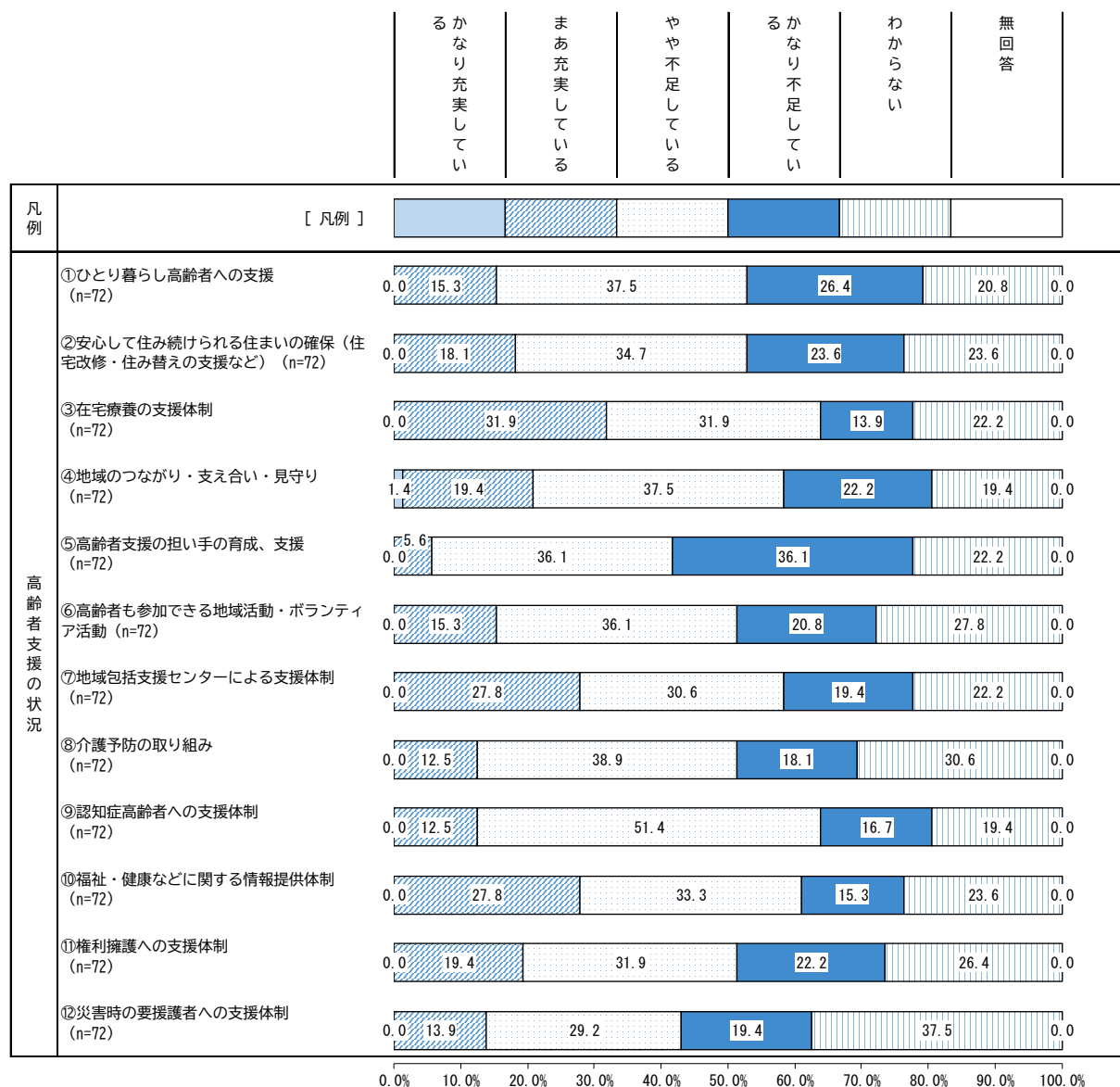
【ケアマネジャー業務での課題】



(4) ケアマネジャーの立場からみた市の高齢者に対する支援の状況

- ケアマネジャーの立場からみた市の高齢者に対する支援の状況についてみると、「かなり充実している」と「まあ充実している」の割合の合計である「充実」は、「③在宅療養の支援体制」が 31.9%で最も多く、次いで「⑦地域包括支援センターによる支援体制」「⑩福祉・健康などに関する情報提供体制」が 27.8%となっています。

【市の高齢者に対する支援の状況（市内のケアマネジャーのみ）】



※市外のケアマネジャーは「わからない・不明・無回答」が50%以上となる設問が多いため、市内ケアマネジャーのみの回答で掲載。

4) 事業所調査結果概要

(1) 近江八幡市内に所在する事業所の職員の過不足状況

- 近江八幡市内に所在する事業所の職員の過不足状況についてみると、全体の3割の法人が、職員不足があると回答しています。

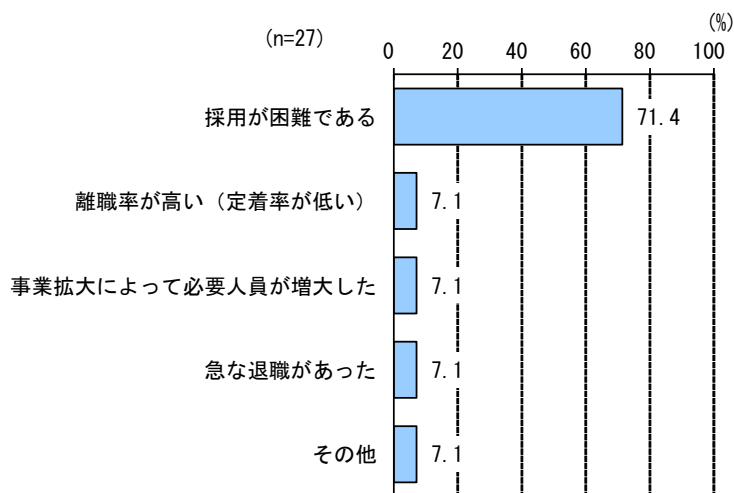
【近江八幡市内に所在する事業所の職員の過不足状況】

回答法人数	職員不足があると回答した法人数	職員不足があると回答した法人の割合
27 法人	9 法人	33.3%

(2) 職員不足の理由

- 職員不足の理由についてみると、「採用が困難である」が71.41%と最も多くなっています。

【職員不足の理由】



(3) 幅広い人材の採用予定

- 今後（も）採用予定がある人材は「シニア層（60歳以上）」が55.6%と最も多く、次いで「子育て等の勤務時間に配慮を要する方」（48.1%）、「外国人（EPA、技能実習生、特定技能）」（22.2%）となっています。

【幅広い人材の採用状況】

